

## 2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月4日
研究・研修課題名	Eラーニング透析液安全管理基礎研修会の受講（透析技術認定士、血液浄化専門臨床工学技士認定更新単位取得）
研究・研修組織名（所属）	MEセンター
研究・研修責任者名（所属）	明穂一広（MEセンター）
研究・研修実施者名（所属）	川畑ひとみ（MEセンター）

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果（ ）
該当者名（所属）	川畑ひとみ（MEセンター）
学会名（会期・場所）、認定名等	透析技術認定士/血液浄化専門臨床工学技士
演題名・認証交付元等	透析療法合同専門委員会/日本臨床工学技士会
取得日・認定期間等	平成29年10月～平成34年9月/平成29年度～平成33年度
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

## 目的及び方法、成果の内容

## ① 目的

2018年診療報酬改定により、透析液水質確保加算（10点）を算定しているが、その算定要件として、関連学会から示されている基準に基づき、水質管理の適切な実施、透析機器安全管理委員会設置、その責任者として専任の医師又は専任の臨床工学技士が1名以上配置、とされている。

一昨年11月に院内の計画停電で起こった、透析用水送水停止事例があった。また、昨今の異常気象による水質悪化も懸念される。病棟再開発から8年を経過した当院の水処理装置ではあるが、医療機器ではないため機器更新の対象となり辛い。しかしながら、血液透析を支える要のシステムであり、水処理装置が安全に稼働できなければ、患者の生命に関わる大事故となり、かつ、いかなる透析療法も不可能となるため、日常的な保守管理は重要である。日常的に起こる機器トラブルも徐々に増えており、臨床工学技士に対する水質管理要求は多くなった。透析液の安全管理を習得するため、eラーニングを受講、単位取得し、次期更新に備える。

## ② 方法

2019年9月1日（日）～受講可能な透析液安全管理基礎研修会をeラーニング受講する

## ③ 成果

1 清浄化の基礎知識（化学的・生物学的汚染と2016年版透析液水質基準のポイント）

2 透析液組成を正確に測定するための基礎知識

3 2016年版水質基準を達成するための手順理解のための基礎知識

4 透析用水製造に用いる元帥の種類と対応

5 化学的汚染基準に対応した水処理装置の設計と管理

6 生物学的汚染に対応したCDDSの設計と管理

7 メーカーが実施している微生物汚染を考慮したメンテナンス方法

8 臨床工学技士が嫉視しなければいけない微生物汚染を考慮したメンテナンス方法

について受講した。透析用水管理について、月1回の測定と、年1回の水質確認を行い、透析機器安全管理委員会へ報告できた。また、外部実習生の教育、後進の指導という点で有用であったと考える。